



INFORMATION

■ 症例検討会のご案内

北九州市立医療センターでは、地域の医療従事者の方々と一緒に医療技術向上のため、下記のとおり症例検討会を実施しています。

症例検討会名・開催日	時間・場所
■ 乳腺テクニカルカンファレンス 毎月 第2・4月曜日開催	時間：18時～19時30分 場所：別館6階 講堂
乳腺外科・放射線科・病理診断科の医師、放射線技師、臨床検査技師、スタッフで症例検討会を行っています。	
■ 呼吸器カンファレンス 毎週 火曜日開催	時間：17時～18時 場所：別館6階 講堂
呼吸器内科・呼吸器外科・放射線科・病理診断科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	
■ 消化管カンファレンス 毎月 第3木曜日開催	時間：18時～19時30分 場所：別館6階 講堂
消化器内科・消化器外科・病理診断科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	
■ 周産期症例検討会 奇数月 第3水曜日開催	時間：19時～20時30分 場所：別館6階 講堂
産婦人科・小児科・小児外科の医師、スタッフで症例検討会を行っています。	

※日程は都合により変更・中止になる場合がございます。事前に医療連携室へご確認の上、ご参加いただければ幸いです。
検討ご希望の症例がございましたらぜひご参加下さい。皆さまの多数のご参加をお待ちしております。
参加申し込みは不要です。(TEL：093-533-8660〈直通〉)

■ 地域医療従事者研修会のご案内

日程	テーマ	講師
9月27日(木)	大腸がんの最新治療 ・大腸がんの外科治療 ・大腸内視鏡治療の進歩	外科部長 佐田 政史 消化器内科主任部長 水谷 孝弘
10月25日(木)	感染症のトピックスと感染対策	総合診療科主任部長 内田 勇二郎 感染管理認定看護師 田中 裕之
11月22日(木)	認知症トピックス ・手術でなおる認知症 ・認知症患者の看護に役立つ ～パーソン・センタード・ケアについて～	脳神経外科部長 金田 章子 病棟看護師 草場 慶江

▶ 場 所：北九州市立医療センター 別館6階講堂 *事前の申し込みは必要ありません。
▶ 時 間：18時30分～(1時間～1時間30分程度) 【問合せ先】北九州市立医療センター 医療連携室 TEL.093-533-8660(直通)

■ 市民公開講座のご案内

テーマ 健康寿命を延ばすために
診療科 整形外科
場 所 北九州市立商工貿易会館
2階多目的ホール
日 時 平成30年9月22日(土)
受付開始：13時30分～
講 演：14時～16時
参加費 無料(事前申込不要)
【問合せ先】
北九州市立医療センター
事務局 管理課
TEL.093-541-1831(内線3104)

輪



輪

北九州市立医療センターニュース「輪」
第70号 2018年8月30日発行

<基本理念>

わたしたちは公共的使命を自覚し
心のこもった最高最良の医療を提供します

編集長：尼田 覚

© 2018 北九州市立医療センター /
本誌に掲載されている内容の無断転載、転用及び複製等の行為はご遠慮ください。

編集後記 この度は平成30年7月豪雨で被災された方々に心からお悔やみ申し上げます。当院の医療連携の会は台風7号の九州北部接近による災害準備対応のため中止となりました。当院は災害拠点病院に指定されており、今回の台風、大阪北部地震、平成30年7月豪雨に対応してまいりました。被害者に直接医療の提供や救援をする機会はありませんでしたが、災害拠点病院としての準備や対応の過程でいろいろなことが確認できました。災害拠点病院として準備をし、市民に安心を与えることができるよう、また実際に活動することがないよう願います。では次回の医療連携の会で皆さまにお会いできることを楽しみにしております。(尼田)

〒802-0077 北九州市小倉北区馬借2丁目1番1号
TEL.093-541-1831(代表) FAX.093-533-8693
<http://www.city.kitakyushu.lg.jp/page/hospital/center/>

広報委員会「輪」編集委員

尼田 覚 重松宏尚 小園真吾 大津博恵 杉本優子 森崎恵美子
高見将彦 小野達也 木村祥子 佐藤美登里 天野健司 高橋未来美



HP：QRコード



FB：QRコード

北九州市立医療センター

CONTENTS

- 01 スポットライト／
北九州市立医療センター DMAT(災害派遣医療チーム)
「平成30年7月豪雨災害に対する活動について」
- 03 地方独立行政法人化に向けた当院の現況と未来像
- 04 医療連携／『連携ネット北九州』のバージョンアップ
- 06 トピックス／海外研修プログラム クリーブランド研修
- 07 院内紹介／補聴器外来を始めました
- 08 看護の広場／4北・西2階病棟
- 09 登録医のご紹介
- 10 医療連携室だより

INFORMATION

症例検討会・地域医療従事者研修会のご案内
市民公開講座のご案内



〔表紙写真について〕
平成30年7月豪雨において、7月8日に当院のDMAT、武藤（医師）、牟田（看護師）、枇杷木（看護師）、水戸（薬剤師）、小園（放射線技師）は広島県に出動いたしました。



北九州市立医療センター DMAT(災害派遣医療チーム) 「平成30年7月豪雨災害に 対する活動について」

今年7月、西日本を中心とした広い地域で集中豪雨が発生。死者216人（7月18日現在）を記録する大災害となりました。7月6日（金）、北九州でも水害が発生しました。当院でも災害対策本部を立ち上げて対応しました。継続的に近隣河川や医療機関の状況を確認し、患者受入れ用のベッドを確保、地下の物品を上階に移動したりしました。7月8日（日）広島県よりDMAT出動要請が出ました。病院長をはじめとした上層部に報告。管理課、薬剤課、臨床工学課、売店など複数の部署の協力のもと準備を整えて同日夕刻出動しました。また院内には、被災地で活動を行う隊員の代わりに情報収集やEMIS（広域災害救急医療情報システム）への入力、現地の宿の手配等をしてもらう後方支援チームをつくって活動しました。複数の職員が院内の通常業務からはずれるため、上層部に勤務調整等を依頼しました。翌日、県立広島病院のDMAT活動拠点本部で活動を開始しました。我々は被害の大きかった呉市のすぐ北にある矢野町の避難所に出動することになりました。綿密な打ち合わせと準備を終えて出発しましたが、結局矢野町には保健所が行くことになり、その出動は中止になりました。代わりに上瀬野の家屋倒壊現場で死亡確認をするよう指示を受けましたが、それも他のチームが行くことになり、一旦本部に帰投しました。夕方になって北広島町の状況を調べる指令を受けて再度出動しました。そこには傷病者が居ないことを確認してこの日の活動を終えました。翌日正午、DMATの需要は

減ってきたとのことで活動拠点本部は解散しました。我々も小倉に帰投することになりました。

今回の出動では残念ながら当DMATはあまり被災地のお役には立てなかったのかも知れません。しかし今回の災害では院内のたくさんの部署のご協力を受け、一丸となって災害対応を行うことができました。DMAT以外の院内の職員に災害対応を経験してもらったことは今後の当院の災害対策を進めていく上で大きな財産になったと思います。近年異常気象による豪雨災害は増え、また高い確率で南海トラフ大地震が起これと予想されています。地震大国といわれる日本では地震災害は避けて通ることができません。災害拠点病院である当院はそれらの災害に対して役目を果たすべく、引き続き災害対策を進めていきます。皆さん今後とも協力よろしくお願いします。

当院DMAT隊
（左から牟田、枇杷木、
武藤、水戸、小園）



県立広島病院DMAT活動拠点本部

平成30年7月豪雨 広島県出動クロノロ*

時刻	活動内容
7月8日	
13:45	DMAT出動要請（待機）
14:00	クロノロ記入開始
14:30	物品準備、公用車の手配等
14:35	目的地までの走行経路、道路状況確認
14:49	輸液準備、輸液セット、ガーゼ多めに準備
15:00	輸液ポンプ、シリンジポンプ用意
15:10	公用車の手配済、ブルーシート・雨具用意
17:18	DMAT出動要請あり 目的地：広島県立病院 7月9日8時到着、7月10日までの活動予定
17:36	装備等、車へ搬入
18:55	DMAT出動
23:38	ホテル到着
7月9日	
1:09	DMAT隊員就寝
6:40	DMAT移動
7:23	イオン宇品駐車場到着
7:39	県立広島病院到着
7:45	本部到着 受付施行
8:08	現地でミーティング開始
8:45	班分け決定：広島市内
8:50	道路状況確認
9:15	広島地域ミーティング開始
9:40	活動場所 矢野地区に決定 目的地：矢野小学校
10:50	本部出発
11:30	活動内容変更：黒判定
12:00	上記活動中止。目的地変更 一旦本部へ帰還
12:17	本部到着。（待機）
13:17	定時連絡：隊員異常なし、本部にて待機中
14:09	県立広島病院での本部活動の補助と現場救急時の対応
14:40	本部にて、3隊合同ミーティング
14:43	北広島町役場での活動指示
15:20	北広島町役場へ出発
16:34	北広島町役場到着
17:03	北広島町役場出発
18:50	本部到着
18:57	三原市、尾道市、呉市断水にて、病院避難・夜間出動の可能性あり
19:03	広島県よりDMAT2次隊派遣要請の可能性ありとの連絡有り
19:50	ホテル到着
21:35	ロジスティックチームの派遣要請あり
21:43	DMAT追加派遣要請解除
7月10日	
7:00	ホテル出発
7:47	県立広島病院本部到着
8:00	現地で全体ミーティング開始 j speedについて
9:20	講義終了 12時まで待機
11:43	12時に本部解散予定
12:03	本部解散、昼食後帰隊
14:17	広島市内から出発
19:00	DMAT帰着



※クロノロ(chronology)：過去の出来事を時系列に並べたもの

地方独立行政法人化に向けた 当院の現況と未来像



北九州市立医療センター院長
中野 徹

まず、本年6月28日からの平成30年7月豪雨で被災されました皆さまに心からのお見舞いと一日も早い復旧をお祈り申し上げます。昨年の7月の九州北部豪雨災害、一昨年の熊本震災と近年は災害続きです。7月3日に予定しておりました私ども北九州市立医療センター地域医療連携会が台風7号接近のために中止となりました。当日発表予定でありました当院の地方独立行政法人化と未来像につき述べさせていただきます。

当院は1873年4月企救郡立病院として開設され145年を経まして来年4月公立病院の殻を脱ぎ、地方独立行政法人化をいたします。全国20政令都市の中で熊本震災のために遅れております熊本市を除き最後となります。6月には評価委員会が立ち上げられ第一回目の中期目標意見聴取が行われました。11月までに中期目標が策定され12月議会に提出予定です。

地方独立行政法人化最大のメリットは適正な人員採用と配置にあります。おそらく同規模病院より大幅に少ない診療支援部の増員が図られ、薬剤師、リハビリ、放射線技師、臨床工学技士、MSWの正規職員増が決まっており、幸い7月末現在で順調に採用予定者を超える応募を認めています。この増員により病院内の機能分化が進み、雑務から解放され専門職が本来の業務に専念でき、医療・看護・技術職・医療安全の質の向上が見込まれます。連携室、入退院センターの充実が地域の医療機関、介護施設の皆さんとのスムーズな前方・後方連携が可能になります。がん診療連携拠点病院、総合周産期母子センター、地域医療支援病院としてさらに質の高い、がん治療、周産期医療、生活習慣病治療が行えると思います。

また事務職は北九州市職員のため、ほぼ3年で人事異動が行われる医事係、庶務係職員のプロパー化により継続的で効率的な経営が可能になります。

インセンティブをつけスタッフのモチベーションを上げることも可能になり、最終的にこれまで以上に誠実で良質な医療を地域の方々に提供できると確信しております。

地方独立行政法人化後の医療センターに是非ご期待ください。

医療連携

Medical collaboration

『連携ネット北九州』のバージョンアップ

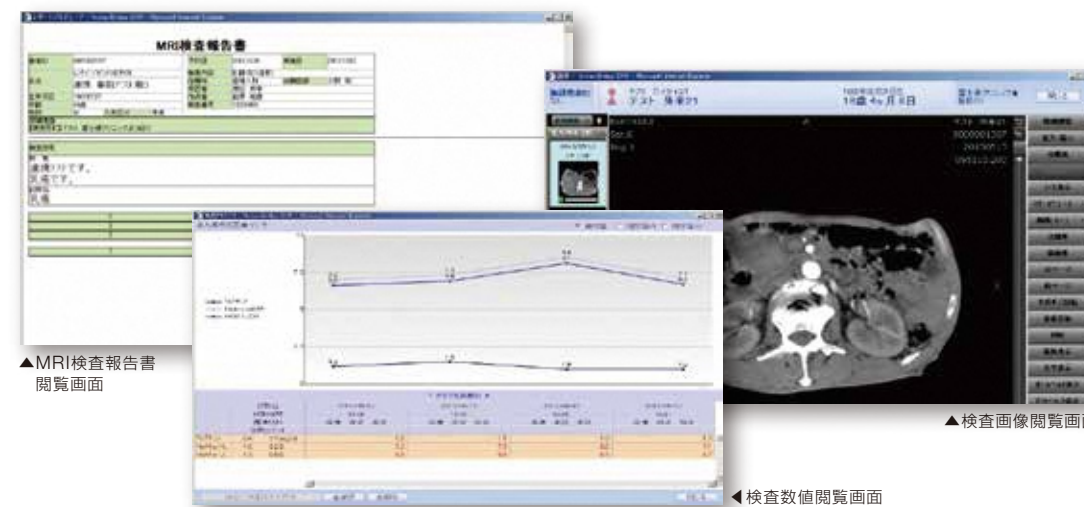
「連携ネット北九州」は、かかりつけ医の先生方と北九州市立医療センターが連携した、地域医療を提供することを目的に患者情報の共有および検査予約を行うことができるシステムです。当院では、「連携ネット北九州」を利用されている先生方から日々さまざまなご意見、ご要望をいただき、より使いやすいシステムにするため随時見直しを行っています。ここでは、2017年6月から2018年6月までに行った見直し内容を紹介します。

1 連携ネット北九州の機能

(1) 患者カルテ閲覧機能

「連携ネット北九州」では、かかりつけ医の先生方が市立医療センターに紹介していただいた患者さんで患者さんが同意した場合に当該患者さんの市立医療センターでの電子カルテの情報を閲覧することができます。「連携ネット北九州」を利用しているかかりつけ医の先生からは、「患者さんから『顔なじみの先生から医療センターでの治療内容を説明してもらって安心した。』と言われたよ。」などのコメントをいただいています。市立医療センターに紹介していただいているほとんどすべての患者さんの情報を閲覧しながら、市立医療センターと連携した地域医療を提供しているかかりつけ医の先生もおられます。閲覧できる項目は、以下のとおりです。

CT検査、MRI検査、RI検査、X線撮影検査、骨密度検査、マンモグラフィ、腹部エコー、体表エコー、頸部血管エコーの検査結果及び内視鏡の画像とレポート、血液・生化学検査、処方箋(服薬・注射)、病理診断、細胞診断、各種サマリ



(2) 画像等検査予約機能

「連携ネット北九州」では、CT、MRIなど画像検査等を予約することができます。予約に際して、電話連絡なども不要です(2018年6月～改良)。



2

「連携ネット北九州」の機能改良

(1) 画像等検査終了後の電話連絡を開始(2017年10月～)

「連携ネット北九州」を使って画像等検査を依頼いただいたクリニックなどに対して、検査終了後、「連携ネット北九州」で検査結果を見ることができるようになった旨を電話連絡しています。これによって検査結果を検査終了後、ほぼリアルタイムで見えていただくことが可能になりました。

(2) 同意書を当院で取得(2018年1月～)

「連携ネット北九州」を利用するには、北九州市立医療センターのカルテ情報を共有するため、患者さんの同意を得る必要があります。これまでかかりつけ医の先生方に同意書の取得をお願いしていましたが、北九州市立医療センターで同意書を取得するよう運用を変更しました。なお、患者さんへ簡単な説明は引き続き、かかりつけ医の先生方をお願いしています。

(3) 予約カレンダーの月間表示(2018年6月～)

これまで、画像等検査予約機能で週単位のカレンダーを表示していましたが、利用している先生方から「患者さんと予約日時を決める際に、曜日が分かるため、月間カレンダーの方が分かりやすい。」というご要望をいただき改修しました。

(4) かかりつけ医からの検査予約後のFAX送信の廃止(2018年6月～)

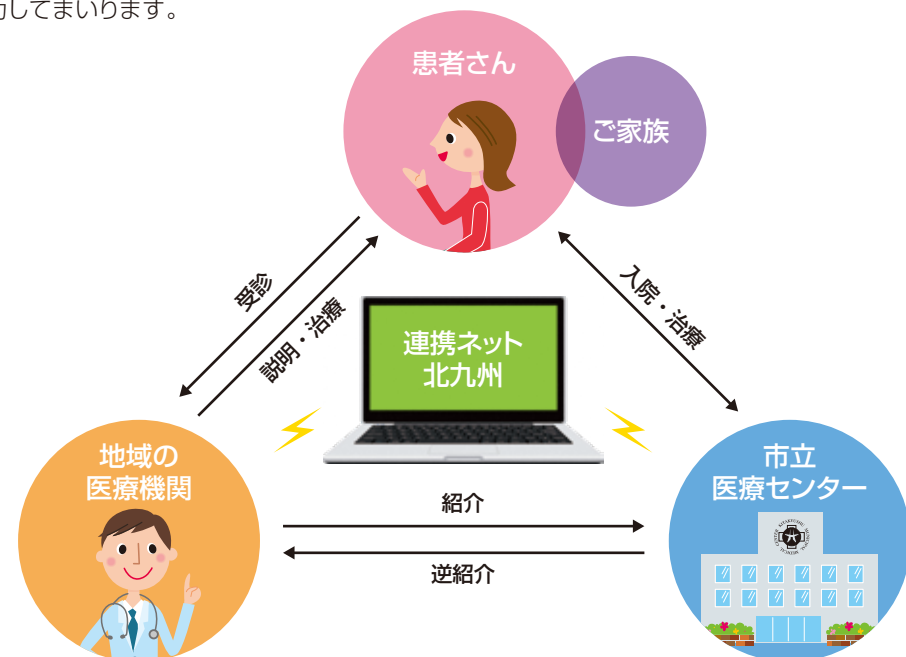
これまで、画像検査等の予約の後に撮影部位の詳細や検査に必要な詳細情報を市立医療センターにFAXの送信をお願いしておりましたが、「連携ネット北九州」から入力できるように改修し、FAX送信を廃止しました。

3

「連携ネット北九州」の今後について

(1) 画像等検査終了後の電話連絡を開始(2017年10月～)

今後もかかりつけ医の先生方からのご意見、ご要望を積極的に取り入れて「連携ネット北九州」をより良いシステムにバージョンアップし、下図のような連携をかかりつけ医の先生方とスムーズな連携関係を構築できるように努力してまいります。



◎海外研修プログラム

クリーブランド研修

TOPICS
トピックス

外科／水内祐介

今回、大西育成留学制度を利用して1か月のCleveland Clinicでの研修プログラムに参加した。小倉の中心部がほぼ収まるような広大な敷地を持つCleveland Clinicは一つの科で一つの病院の規模を持ち、それらが巨大な病院を形成していた(写真1)。Colorectal surgeryだけで10、全体で78の手術室を持ち、全米1位の実績を30年近く継続しているCardiac Surgeryでは毎日約25件の開心術が行われていた。Colorectal Surgeryでは1日20件前後の手術があり、本邦での大腸手術のほとんどが大腸がんなどの悪性疾患だが、米国では炎症性腸疾患、治療抵抗性の便通異常に対する大腸切除が多かった。

手術は主にDr. Shawki(写真2)とDr. Gorgun(写真3)の手術を見学したがどちらの先生も温和かつ指導的で手術も非常に洗練されていた。経肛門的に直腸がんに対する直腸間膜全切除を行うTaTMEに関しては炎症性腸疾患を中心にDr.Shawkiが積極的に行っており、10件近い手術を見学することができた。Dr.Shawkiからはいつでも日本に指導に行くよと言っていた。当院での導入も検討していきたい。Cleveland Clinicでは硬膜外麻酔は使用せず、神経ブロックを用いた術後鎮痛を行っていた。腹腔鏡で腹腔内を観察しながら安全に処置を行っていた。

今回のCleveland Clinicでの研修は当院にWOCナースの指導に来ていただいている堀内先生にご紹介いただいた。WOCナースとは創傷、オストミー、失禁の専門ナースであり、当院でも2名のWOCナースが活躍している。堀内先生にご紹介いただいた井本千寿さんはWOCナースとしてCleveland Clinicで勤務されており、病院内の案内だけでなく自宅に招待いただき、ご家族と食事を囲むなど非常にお世話になった(写真4)。業務では100人近いストーマ関連の入院患者の処置や外来での処置を総勢26人のWOCナースで対応していた。処置としては当院でもWOCナースを中心に施行している陰圧閉鎖療法を多数見学できた。壊死性筋膜炎による会陰部の大きな欠損部に対する処置において肛門を避けつつエア漏れなく陰圧がかかるようにする工夫には驚きを感じた。



写真2：Dr. Shawki(右)と



写真3：Dr. gorgun(左)と



写真4：WOCナース 井本さんと

Cleveland Clinic(アメリカ)では完全に分業化されており、Clorectal surgeryのスタッフは手術と外来業務のみで病棟はフェローと呼ばれる6、7年目の若手外科医が管理していた。薬剤の処方なども医師がすることはなく専門の薬剤師が行っており、外来もホームドクターやホームケアナースとの連携が取れておりこの規模の病院でスタッフ1人の外来患者数は15～6人と当院よりも少ない状態であった。本邦における医療体制はこのあたりに改善の余地があるのではないかと考えた。

さらに大阪大学、日本医大や静岡県がんセンター、東京医科歯科大学の同年代の下部消化管外科医と話をする機会を得、意見交換ができたことも非常に有意義であった。今回の経験を当院での明日からの診療に活かしていきたい。

写真1：Cleveland Clinic





院内紹介



耳鼻咽喉科 部長
高岩 一貴

補聴器外来を始めました

2018年5月より補聴器外来を始めました。

補聴器を購入したことがない患者さんはもちろん、補聴器をすでにご購入されている患者さんでもご相談していただけます。

難聴の訴えはさまざまで、日常会話そのものの困難を訴える方他にも「テレビの音が煩い」と言われていることを悩まれた方、寄り合いや会議での聞き取りに困難を感じて来院される方もおられます。

難聴患者さんの多くは老年性難聴という内耳の加齢による変化が原因ですが、それ以外にも突発性難聴、メニエール病、慢性中耳炎、外傷などの疾患による難聴もあり原因はさまざまです。すべての患者さんに補聴器の適応があるわけではなく、中には手術による聴力改善が図れる方もおられます。

患者さんが耳鼻咽喉科外来を受診された際に専門医が補聴器適応の有無を判定し、効果があると診断された患者さんに補聴器外来を再診していただいております。

補聴器外来では2週間程度の補聴器の貸し出しを行い、日常生活での補聴器の装用効果を実際に感じていただきます。実際に装用してみても困りの会話がしやすくなったと実感できた方には購入をお勧めします。

補聴器使用者の大多数は老年性難聴などの感音性難聴の患者さんです。この難聴は単に小さい音が聞こえないだけは

なく、大きい音は割れたようにうるさく感じたり、不自然に歪んだ音に聞こえることで言葉の聞き取りが悪く会話に困ることが起こります。

感音難聴の原因は内耳と呼ばれる「聴こえの神経」が年齢的变化によって減少したりさらに脳に刺激を伝える部分に加齢性変化が起こるためであり、これを完全に補う補聴器は存在しません。

近年はデジタル補聴器も進歩しており、周囲の雑音を抑える機能(ノイズリダクション)、自分の正面から来る声や音を選別して聴き取りやすくする機能(指向性マイク)等の機能が加わり格段に機能向上が図られています。当然値段も高くなる傾向にあります。

補聴器は「高ければ良い」わけではなく、「その方に合った補聴器」が「良い補聴器」であることを知っていただきたいと我々は考えています。

難聴の患者さんの中には耳鳴を主訴に来院される方もいらっしゃると思います。難聴に伴う耳鳴に対する治療として補聴器装用があります。ぜひご相談ください。

補聴器外来：第一・第三水曜日午後



耳鼻咽喉科医師(左から：真子医師、田中医師、古後医師、高岩医師)



補聴器をつけた時の様子

看護の広場

4北・西2階病棟

統合され新しくなりました



4北・西2階病棟 看護師長 前田 由美

2017年10月に4北一般病棟(外科・呼吸器内科)と西2階(感染症)病棟が統合され、2018年4月からは4北小児科病棟も統合となり、新しく4北・西2病棟となりました。

4北／44床、西2／16床の病棟です。看護師36名、看護補助者3名、保育士3名で、さまざまな年齢・疾患の入院患者さんの看護を日々行っています。

外科・呼吸器内科では、女性の患者さんを中心に、手術前後や、抗がん剤治療を受ける患者さんの治療に関する看護だけでなく、精神的な看護を行っています。

乳がん認定看護師も在籍しており、認定看護師を中心に、乳がんの手術前後の不安の軽減や退院後の日常生活への指導にも力を入れています。

また、地域に戻られてからも継続した看護を受けていただけるよう、必要時には担当ケアマネージャーや訪問看護師との連携も積極的に行っています。

小児科では、0歳～15歳までのいろいろな診療科の子供たちが入院されます。

子供たちの看護に加え、ご家族との信頼関係を大切に、保育士とも協力し、年齢に合わせた看護や保育を提供し、安心して安全に療養できる環境作りに努めています。廊下の一部には、季節を感じる飾りが壁を彩り、レクリエーションなども企画しています。

西2階の感染症病棟では、2類感染症や新型の感染症にも対応できるよう、保健所との合同訓練も行っており、院内だけでなく、地域の公衆衛生へも貢献できるよう努力しています。

西2階病棟は、緊急入院の患者さんも多く、全個室での入院となるため、患者さんの不安を和らげる看護を心掛けています。

新しく生まれ変わった4北・西2病棟。

4北病棟の改築工事も終了し、新しく個室も2室新設されました。

年齢も疾患もさまざまですが、どの科も共通に、看護師だからこそできる患者さんやご家族に寄り添った看護を目指して、スタッフ一同力を合わせ、頑張っていきたいと思います。



外科の先生方と



小児科・小児外科の先生方と



保育士さん・補助さん



保健所との合同訓練の様子

Registered physician Information



登録医のご紹介

Clinic
1

医療法人 池園医院

INFORMATION

所在地：戸畑区中原西3丁目2-10
T E L：093-871-2068

院 長：池園 友
診療科目：内科・消化器内科
・循環器内科



院長
池園 友



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:00	○	○	○	○	○	△	×
15:00~18:00	○	○	○	×	○	×	×

※休診日：日曜、祝日、8月13日～15日、12月30日～1月3日



アピールポイント

当院はかかりつけ医として、慢性疾患および在宅医療を地域の病院や多職種とも連携を取りながら診療を行っています。また階上に介護施設およびサービス付住宅（ちろりん村）を併設し、高齢者がより安心できる生活を支えています。

市立医療センターへの一言

主にがんの外科症例などは患者さんの希望も強く医療センターへご紹介するケースが多々あるかと思います。また女性の急性腹症で婦人科疾患が疑われるときなどは、ご紹介させていただいています。

Clinic
2

医療法人 前田クリニック

INFORMATION

所在地：小倉南区呼野1091
T E L：093-453-2345

院 長：前田 隆美
診療科目：内科、胃腸科、循環器科、外科



院長
前田 隆美



診療時間	月	火	水	木	金	土	日
9:00~12:30	○	○	○	○	○	○	×
14:00~18:00	○	○	×	○	○	×	×

※土曜日は12時15分まで

※火曜日午後と木曜日は外科診療



アピールポイント

胃カメラ・大腸カメラ・エコー検査（腹部・頸動脈・甲状腺・その他体の腫瘍部分の診断）を駆使し、急に発症した疾患の診断を行い、病院への紹介が必要かどうかを速やかに診断します。高血圧症、糖尿病、慢性腎臓病などに適切な生活指導を行います。これらを車の両輪とした診療を行っています。

市立医療センターへの一言

検査で判明した癌（消化器のがん、前立腺がん、甲状腺がん、乳がんなど）の治療依頼（消化器内科、肝臓内科、外科、泌尿器科）、血液疾患の精密検査・治療の依頼（血液内科）、増加している腰部脊柱管狭窄症の検査・治療の依頼（整形外科）等、多くの診療科での診療連携でお世話になっています。

平素より、当院の地域医療連携推進につきまして、ご理解とご協力をいただき心から感謝申し上げます。

地域包括システムの推進が進められている中、地域連携の重要性が認識されています。地域支援病院、地域がん拠点病院である当院は、高齢患者の増加や在院日数短縮により退院支援・退院調整を必要とする症例も増えています。さらに医療依存度の高い患者さんが在宅で療養生活を継続していかなければならない現状で在宅移行期における訪問看護の利用も年々増えています。後方連携を推進していくにあたり訪問看護師と連携し患者さん・ご家族の満足度の高いサービスの提供を図ることが重要と考えます。病院と在宅部門の支援者が患者さんの在宅生活を支える上でそれぞれの役割を発揮する必要があります。

そこで2017年10月より「訪問看護ステーションとの連絡会議」を定期的に開催し、地域の訪問看護ステーションと顔の見える関係作りを行い、連携を進める上での問題解決のための意見交換、事例検討などを行い、退院支援・退院調整の質の向上に努めています。病院受診ひとつでも介護度の高い患者さんにとってみでは本当に大変な思いをされている状況などの意見を伺うことで、訪問診療の必要性、退院調整について考える機会となっています。

訪問看護の現場には「生活の場での看護」と「生活・くらし・人生をみすえた看護」があります。訪問看護の経験のない私たち職員にとっては意見交換を通じて学びの場となっています。

当院は訪問看護師との退院後同行訪問の実施はできていません。入院中の退院指導についてなど在宅での暮らしを意識し病院看護師は訪問看護に情報提供できたかなど、連携の過程を振り返る機会を持ち、今後の連携の質の向上に向けてさらなる取り組みを行っていききたいと思います。今後ともご協力をよろしくお願い申し上げます。

地域医療連携推進担当係長 播磨 由美



前方連携、後方連携合わせて16名で対応させていただいております！
どうぞよろしくお願いします。

【医療連携室】

TEL 093-533-8660(直通) FAX 093-533-8718 <http://www.city.kitakyushu.lg.jp/page/hospital/center/>
E-mail:byou-iryuu-renkei@city.kitakyushu.lg.jp ※患者さんのご紹介は、E-mailでは受付けておりません。

医療連携室だより

医療連携を基本に業務内容の充実を図り、地域医療機関、患者さん、職員からも安心して頼りにされるよう取り組んでまいります。